

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 11 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492100031		
法人名	社会福祉法人 口和福社会		
事業所名	グループホーム口和		
所在地	広島県庄原市口和町永田413 (電話) 0824-89-2700		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成26年8月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>庄原市口和町は緑豊かな自然に囲まれた地域です。ここにグループホーム口和はあります。1ユニット9名の入居者様が生活をされています。入居者様はそれぞれの役割りを持たれており、自分の特技を毎日の生活の中で十分に発揮されています。職員はそれをお手伝いさせていただいています。また、地域と関わりや、小学校の訪問その中での体験学習など実施。庄原市社会福祉協議会口和地域センターと合同で啓発活動などに取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム口和（以下、ホーム）は、庄原市口和町の自然豊かな環境の中にあります。社会福祉法人口和福社会を母体とし、同じ敷地内には法人が運営する施設等があり、行事など協力しながら合同で実施されています。複合型施設の強みを活かし、入居者や家族、地域住民ニーズに応えるための協力体制を整えておられます。職員が担当を受け持ち、それぞれの分野で意見や提案が出しやすいよう体制を整える準備をされています。入居者の個別行動計画を作成し、一人ひとりの生活ペースを大切にされた支援に努力されています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	現在掲げている理念を職員皆で共有し実践しています。入居者様に寄り添うよう心掛けて日々取り組んでいます。	法人理念を基本に、職員や家族、地域住民に溶け込みやすいホーム独自の理念を3年前に見直し、職員全員で検討し作成されています。玄関に理念を大きく掲示されています。入居者にハンドマッサージを行ったり、散歩や日常会話を通して新たな情報を得たり、その日その時の思いを汲み取りながら理念の実践に繋がるよう努力されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や通院、散髪などを通じて地域との関わりを継続しています。	法人の夏祭りには、地域住民の参加があります。近隣の保育園との交流が継続して行われ、24年度は園児がホームの1日施設長として交流された事例があり、毎月、「園だより」を散歩の途中に持ってくるなどの交流が続けられています。また、職員は小学校が実施した介護体験で、講師として協力されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	庄原市社会福祉協議会口和地域センターと合同で小学校への訪問や体験学習を実施しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開催して地域の方から花壇の提供や交流会など意見やアドバイスをいただいています。	会議は、支所職員、地域包括支援センター職員、地域住民、家族、入居者が参加されています。会議では、入居者の現状や活動報告、意見交換が行われています。	会議の開催が前年度4回でした。今後は、より一層の向上をめざし、関係会議等を兼ねる等して、年6回以上の会議開催を目標にされることを提案します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターやの保健師また地元の社協との連携を取っています。	運営推進会議に支所職員の出席を得られます。法人では、市の委託を受け、独居の高齢者の情報収集や見守りが行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年1回の法人研修や事業所内での研修会を実施入居者様の権利擁護指針を作成し職員が意識して業務に取り組めるよう掲示しています。</p>	<p>話し方や接し方、表現など接遇に関する内容をより具体化した「権利擁護指針」をホーム独自に作成し、共有フロアに掲示されています。また、勉強会を通して職員全体で共通の理解を深めておられます。不適切な言葉かけがあれば、職員同士、声をかけ合い注意されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年1回の法人研修や事業所内での研修会を実施しています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所内で研修会を開催し職員で共有しています。事業所内に権利擁護指針を掲示し意識を高めています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は担当職員が分かりやすく説明しています。契約後でも疑問や質問があればその都度説明をしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関入口に意見箱を設置し意見を聞けるよう取り組んでいます。また利用明細書に入居者様の1カ月の様子を御家族に手紙で伝えるよう取り組んでいます。</p>	<p>法人全体で、行事を兼ねた家族会を年1回開き、意見を言いやすい機会づくりに取り組まれています。また、毎月、職員が手書きした手紙を添えて送るなど、コミュニケーションを取り合いながら意見や提案を聞かれています。</p>	
		○運営に関する職員意見の反映			話し合いが必要な場合は、その都度、会

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や業務の中で意見を聞き取ったり、職員同士が共有できるノートを作成し意見の交換をしています。	話し合いが必要な場合は、その都度、会議を開催されています。共有ノートやケース記録を職員全体に回覧し、情報共有を徹底されています。職員ごとに各種担当を決め、それぞれの分野で意見や提案が出しやすい仕組みづくりを検討されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境や設備など、整備しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で研修を実施。職員全員参加で取り組んでいます。また休まれた職員に対しても後日伝達研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修に参加し他事業所の職員との情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントと生活歴を参考に本人様の声や要望、家族様の希望、願いなど聞き取り安心して生活が出来るよう取り組んでいます。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前、家族様の不安なこと、要望などお話を聞き本人様が安心して生活が出来るよう援助しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要としている支援は行っていますが、他のサービスを含めた対応は現在ありません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ともに生活をしている家族のように、安心と安らぎをもつてい、時には自慢の畑仕事など先頭に立って職員とともに生活をされています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的な面会を通じて関係が途切れないように努めています。またすべての家族様に対しメッセージカードを明細書送付時に送っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通院や散歩、散髪などを通じてなじみの関係が途切れないよう努めています。	入居者のこれまでの生活や習慣など、日々の会話から情報を得ておられます。家族と一緒に墓参りに出かける入居者もあり、これまでの習慣が途切れないよう支援されています。また、ホームには、家族や知人の訪問もあります。	
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が入居者様との間に入り円滑に関係が築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	併設施設に入居された場合は訪問などを実施しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時の状況を把握してお話しが出来るよう取り組んでいます。本人様の得意な事や活躍できるよう支援しています。	24時間シートをもとに、入居者一人ひとりの生活リズムの把握に努めておられます。そのうえで、何ができて何ができないかを職員全体で情報共有できるよう、本人の行動を文章だけでなく写真に残すなどの工夫をされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居初期の段階や入居後からの本人様のお話しや家族様からのお話しで得た情報を職員で共有し本人様にとって良い環境作りを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居初期からのアセスメント、24時間シートを使ってのアセスメントを実施し、1日の暮らしや得意分野、出来る事、できな事の把握に努めています。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員全員で24時間シートの作成に取り組み、個別の行動計画書を作成、介護計画をもとに職員全員で統一した介護に取り組んでいます。	モニタリングから把握できる入居者の状況を整理し、計画の見直しが行われています。アセスメントの様式を工夫し、一人ひとりのできる事等を詳しく記入されています。また、本人の役割をプランに反映させ、個別支援を中心に組み込まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や日誌、きずきノートを確認しながら情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	自然災害などに対応した事例もあり、もしもの時の対応が出来るよう体制を整えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その人にとって必要な地域資源を活用し、地域で安心して暮らせるよう関係各所と連携し取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医・歯科医師との連絡が円滑に出来るよう日頃から情報交換を行っています。また月に1度は必ず通院を行い緊急時に対応できるよう取り組んでいます。	入居者は、これまでのかかりつけ医を継続して受診されています。通院は、職員の付き添いのもと受診されています。医療に関する情報を家族と共有し、家族や医師と連携を図りながら健康管理に取り組まれています。	
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設施設の看護師と連絡、報告の体制が整っており、日々の入居者様の状態を報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状態を家族様や入院機関などへ連絡し状態把握に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化については併設施設や嘱託医の指示のもと医療機関へつなげるよう取り組んでいます。またこの事について契約時に家族様に事業所の方針を伝え御理解を頂いています。	入居時にホームの方針を家族に説明し、理解を得ておられます。ホームで過ごせる時点までを支援し、法人が運営する施設や医療機関へ適切に繋げておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内で研修会を実施。心肺蘇生法からAEDの使用方法について勉強会を行いました。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人内で年2回消防訓練を実施。火災時の訓練と避難経路の確認をしています。	消防署立ち会いのもと訓練を実施し、入居者も一緒に参加されています。ホームには、スプリンクラー、自動通報装置が完備されています。	今後は、自然災害を想定し避難方法、対策について検討されることを期待します。また、災害時における避難場所として受け入れ基準を明確化させ、地域に発信されることを提案します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員が共通意識を持ち業務に取り組んでいます。研修会を開催し権利擁護の知識を深めていけるよう取り組んでいます	一人ひとりのペースに合わせ、無理強いない言葉かけや対応をされています。居室には必ずノックをして入るなど、プライバシーを損ねないよう気をつけておられます。また、入居者の個人記録などは、鍵付きの棚に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活のなかで入居者の皆様が自分らしく表現が出来るように関わりをもっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的なスケジュールはありますが、一人ひとりの生活リズムを大切に、安心して生活が出来るよう援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしくあられるように、おしゃれや身だしなみに、整容のお手伝いをさせていただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その季節に収穫できる野菜などを育てています。収穫時期には皆さんで「初物」を頂いています。また嗜好調査を行っています。	毎食職員が調理した食事を提供されています。食事の準備を手伝う入居者もおられます。時には、おはぎや柏餅など、入居者と職員と一緒に作る楽しみも設けられています。ホームの畑でできた野菜の他に、差し入れされた野菜が食卓に並ぶこともあります。嗜好調査を年2回実施し、食事が楽しみの一つとなるよう努力されています。	
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事がおいしくいただけるように工夫をしながら食事の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施しています。また歯科通院実施し歯の状態、義歯の状態について診察をしていただきました。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを職員で共有し排泄誘導を実施しています。	トイレは3か所あり、男性用立位便器が完備されています。排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握されています。また、入居者の状況に応じて、夜間、居室にポータブルトイレを設置されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならないように日頃から運動や食事水分補給に気をつけながら便秘予防に勤めています。排便がないようだったら看護師に報告し通院を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居様が安心して気持ちよく入浴が出来るように支援しています。	2日に1回の個別入浴を基本に支援されています。浴場にエアコンが完備されています。時には入浴剤を使い、ゆったりと風呂が楽しめるよう工夫されています。湯船に浸かることが難しい入居者もスムーズに入浴できるよう、手順を検討し周知しておられます。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様一人ひとりのリズムに合わせて休息をしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師と連携して服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の準備、掃除などそれぞれの役割りをもって活動できるよう日常生活を送っていただいています。その人の出来る事、出来ないことを把握しながら支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の散歩を中心にドライブや外食といった楽しみも取り入れて入居者の皆様に楽しんで頂けるよう取り組んでいます。	天気の良い日は、ホーム周辺を散歩されています。四季折々近郊の桜や紅葉狩りに出かけ、気分転換を図っておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人様がお金を管理して自立に向けた支援を行う事の大切さは理解していますが、法人全体の取り組みとして原則金銭の持ち込みは禁止にしています。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が家族へいつでも連絡が出来るように支援しています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の趣味を活かした空間作り、生け花やちぎり絵、書道など展示しています。	リビングと台所が一体的な造りで、開放感があります。ゆったりとしたソファが設置され、テレビ鑑賞や会話を楽しむなど自由に過ごせるよう工夫されています。ホーム内は、季節感のある飾りつけで温かい雰囲気のある空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング、廊下に椅子を配置して共用空間の中でも一人になれる空間作りに取り組んでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が以前から愛用されていた物があれば持ち込んでいただくよう説明しています。また新聞など個人に必要な物があれば外部から取りようせるよう支援しています。	入居者は、使い慣れたベッドやテレビ、小物を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者が安心して生活が営めるよう職員同士で情報共有し自立に向けた生活を支援しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム口和

作成日 平成 26 年 11 月 20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催。	年6回以上の開催を計画する。	地域の行事に積極的に参加し, 地域との関係を綿密にする等, グループホームを知ってもらう。	平成27年3月末まで
2	35	災害時における避難訓練が平成19年度開設以来, 未実施であった。	施設のすぐ側に河川が流れており, 氾濫を想定しての避難訓練を行う。	併設施設の3階への高台を避難場所に設定し, 避難方法, 所要時間, 問題点等の把握を行う。	平成26年11月31日実施
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。